

# 津軽平野における商圈の研究

弘前，五所川原，黒石の三市を中心として

鹿 俣 克 美

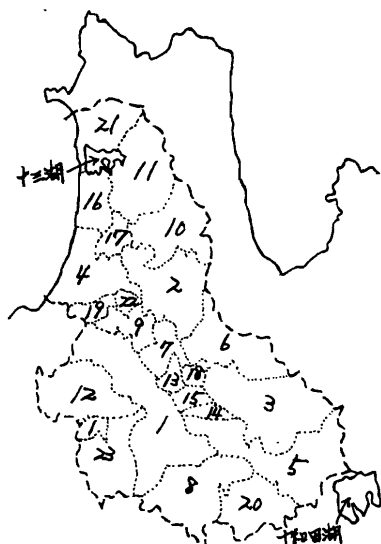
## I はじめに

都市とその周辺地域の結合関係を考察する場合，その最も強い結合関係は経済関係にあることが認められている。このような関係は特に商業ないしサービス業に関して強く現われており，これを地域的に投影すれば商圈・サービス圏としてとらえられる。本研究は，弘前，五所川原，黒石の三市を中心として津軽平野における商圈の範囲及び構造の把握を目的として行なったものである。

## II 調査対象地域の概観

本調査は，津軽地方の中心部にあたる津軽平野を対象としたものである。対象地域は，弘前，五所川原，黒石の三市をはじめ11町9村の計23市町村とした。「第1図」対象地域の総面

第1図 調査対象地域



### 調査番号

- 1 弘前市
- 2 五所川原市
- 3 黒石市
- 4 木造町
- 5 平賀町
- 6 浪岡町
- 7 板柳町
- 8 大鰐町
- 9 鶴田町
- 10 金木町
- 11 中里町
- 12 岩木町
- 13 藤崎町
- 14 尾上町
- 15 田舎館村
- 16 車力村
- 17 稲垣村
- 18 常盤村
- 19 森田村
- 20 碓ヶ関村
- 21 市浦村
- 22 柏村
- 23 相馬村

積は2,338.63Kmで県の総面積の24.3%に当たる。人口は497,880人で県総人口の35.1%となり，世帯数では106,598世帯となり県の34.4%を占める。津軽平野における産業別就業人口の構成比をみると，第1次産業人口が6.8%，第2次9%，第3次2.3%となり，第1次産業人口が最も多い割合を占めている（昭40調べ）。なお昭和45年の小売業における商店数と年間販売額を第1表に上げた。

## III 調査方法

### (1) 調査票の配布と回収

本研究は，津軽平野の各市町村について商圈・サービス圏の目的で周辺の調査によるアンケート調査を行なった。調査票の配布数は，各市町村の総世帯数（昭40）の5パーセントを対

第1表 商店数及び年間販売額(小売業)

〈昭和45年〉

調査番号	商店数	年間販売額
1	3,347店	3,989,826万円
2	953	1,699,719
3	882	610,960
4	368	200,751
5	283	164,528
6	407	196,817
7	368	298,705
8	322	189,569
9	289	116,304
10	264	169,598
11	214	99,239
12	137	56,344
13	223	86,998
14	185	72,883
15	105	29,832
16	90	18,428
17	76	40,493
18	81	13,056
19	94	28,110
20	81	44,772
21	84	29,394
22	47	16,148
23	38	9,145

象とした。調査票は、小・中学校の協力  
を得て小学校4校、中学校59校の計  
63校に対し、4,392枚の配布を行  
ない回収数は3,620枚で回収率は  
82.4%であった。

## (2) 調査項目

調査項目は、職業、通勤・通学、自  
家用車の有無、病院の利用、買物、デ  
パートの利用、娯楽の項目からなる。  
この中で、通学は高等学校以上、病院  
の利用は重い病気の場合、娯楽は映画、  
パチンコ、ボーリング、買物では下着、  
紳士服など衣料品を主とする商品と、  
時計、家具など耐久消費財の計17商  
品に関して調査した。

## Ⅳ 結果の概要

### (1) 商圏設定のための手段

各地域の商圏を設定するに当たって  
今までアンケート調査をしてきた項目  
のうち、特に商品購入における「買物」  
と、サービス機能の「病院」、「娯楽」

を取り上げ商圏設定の根拠とした。他の項目は多角的な方向から見るための参考とした。また、  
商圏設定に重要な要素となる各地域の商店数、年間販売額も加味して、より具体的な商圏の設  
定を試みた。

### (2) 「病院」、「買物」、「娯楽」

「病院」は一般に最寄的性格が強く、地元依存率が80%以上の地域は三市以外に、平賀、  
浪岡、板柳、金木の4地域に及んでいる「第2表」。「買物」では、17商品を依存度によっ  
て次の4つのグループに分類した。A、最寄品(ズック靴及び下駄、下着、洋品小間物類)B、  
最寄的耐久消費財(石油コンロ、蛍光灯、テレビ、電気アイロン、電気釜、電気洗濯機)C、  
C買回品(呉服地、婦人服、紳士服、革靴)D、専門品(机、タンス、カメラ)「第3表A、  
C」。「娯楽」は、解答率が映画42.0%、パチンコ28.3%、ボーリング23.4%のように  
非常に低いため映画のみを取り上げ娯楽圏設定の基準とした。娯楽施設の利用度は一部を除き

第2表 病院圏

## &lt; 依 存 率 &gt;

調査 番号	解 答 率	弘 前 市	五所川原市	黒 石 市	地元市町村	そ の 他
1	90.8%		%	%	79.6%	板柳町 10.4%
2	94.1	3.3%			89.8	
3	96.7	2.4			94.2	
4	94.0	2.8	32.3		57.6	
5	92.7	12.0			80.0	
6	96.9	6.7		2.1	82.1	青森市 6.2
7	99.4	9.4			90.1	
8	92.3	23.2			69.0	
9	94.1	3.3	28.9		59.2	
10	98.5		14.7		83.1	
11	96.4	3.6	38.5			金木町 52.9
12	91.9	90.0			2.0	
13	100.0	78.8			20.1	板柳町 2.9
14	95.7	43.6		47.9	3.2	
15	92.1	38.1		54.0		
16	82.9	2.9	45.7		21.4	金木町 21.4
17	98.8		77.8			金木町 18.5
18	93.6	61.7			14.9	浪岡町 14.9
19	85.2		72.2			木造町 9.3
20	100.0	67.4			4.7	大鰐町 27.9
21	93.5	2.2	63.0			金木町 23.9
22	100.0	2.8	77.8			木造町 19.4
23	84.6	84.6				

第3表A 最寄品

< 依 存 率 >

調査 番号	解 答 率	弘 前 市	五所川原市	黒 石 市	地元市町村	そ の 他
1	96.7%		%	%	88.0%	板柳町 6.2%
2	97.7	%			97.4	
3	95.7	4.5			90.5	
4	97.7		51.5		46.2	
5	98.9	54.4			42.7	
6	91.1	22.2		5.3	53.8	青森市 8.4
7	99.4	21.2	4.9		72.3	
8	95.3	28.2			67.1	
9	95.8	1.3	43.4		49.1	板柳町 2.0
10	99.3		42.2		57.1	
11	96.2		19.0		57.1	金木町 20.0
12	98.0	90.9			7.1	
13	99.7	55.8			40.7	板柳町 3.2
14	96.8	67.0		9.2	20.2	
15	97.9	52.9		38.6	6.4	
16	91.0		21.0		67.6	金木町 1.9
17	99.6		77.8		6.2	金木町 14.8
18	98.6	67.2			22.7	浪岡町 5.0
19	93.2		80.9		8.0	
20	96.1	47.3			48.8	
21	93.5	1.4	34.0		52.9	小泊村 2.9
22	100.0		84.3			木造町 13.0
23	100.0	83.3			16.7	

第3表C 買回品

< 依 存 率 >

調査 番号	解 答 率	弘 前 市	五所川原市	黒 石 市	地元市町村	そ の 他
1	94.8%		%	%	88.7%	板柳町 3.7%
2	96.6	1.5%			93.6	
3	93.2	13.8			77.4	
4	94.6		60.6		33.2	
5	98.2	78.2			18.7	
6	91.9	36.2		5.8	29.2	青森市 18.1
7	96.9	41.2	7.7		44.3	青森市 2.6
8	93.2	64.8			28.4	
9	92.8	6.3	59.0		25.5	板柳町 1.3
10	95.2		62.7		32.5	
11	95.2		52.5		24.3	金木町 16.8
12	98.5	95.5			3.0	
13	97.6	83.7			6.7	青森市 3.3
14	95.5	81.4		5.9	8.2	
15	97.2	62.7		33.3		
16	87.5	1.4	46.1		36.1	金木町 3.6
17	99.4		90.4		1.5	金木町 4.9
18	99.0	88.3		1.1		青森市 4.8
19	89.4	4.6	80.6		2.3	
20	95.4	76.7			18.6	
21	89.1	2.2	45.7	1.1	34.2	青森市 2.2
22	100.0	2.8	86.1			木造町 10.4
23	100.0	98.1			1.9	

第4表 娯楽園（映画のみ）

< 依 存 率 >

調査 番号	解 答 率	弘 前 市	五所川原市	黒 石 市	地元市町村	そ の 他
1	52.5%		%	%	51.7%	%
2	46.6	%			45.0	
3	45.6	24			43.2	
4	28.6	1.8				
5	52.0	52.0				
6	40.5	9.7			17.9	青森市 12.8
7	37.4	34.5			2.3	
8	40.6	27.7			12.9	
9	32.9	4.0	28.9			
10	44.9		12.5		32.4	
11	52.1		42.9			金木町 9.3
12	57.6	57.6				
13	39.4	37.5				青森市 1.9
14	39.4	33.0		6.4		
15	52.4	36.5		15.9		
16	15.7		12.9			金木町 2.9
17	45.7		35.8			金木町 9.9
18	59.6	53.2				浪岡町 4.3
19	31.5	1.9	27.8			青森市 1.9
20	32.6	27.9				大鰐町 2.3
21	23.9		21.7			
22	50.0		50.0			
23	46.2					

ほとんどが弘前、五所川原依存であった「第4表」。

## V 津軽平野の商圈

### (1) 自立商圈確立地域について

アンケートの結果より津軽平野において三市以外に独自の商圈を形成している地域としては、木造町、浪岡町、板柳町、大鰐町、金木町の5地域が上げられる。この中で大鰐、木造は弘前、五所川原両市の第二次圏的色彩が強く、浪岡町も弘前、青森両商圈が介入しており、将来も急激な発展は期待されない現状である。金木町は、五所川原商圈の第二次圏的存在にありながら地元商業の発展は著しく過去6年間の年間販売額も約3倍の伸びを示している。これは、金木町以北の地域が交通事情その他の面において五所川原市よりも距離的に近く、しかもある程度商業設備の整った金木町に集中しているためである。そのため今後の金木町の商業は、五所川原商圈が拡大してもさらに発展が予想される。板柳町の商店1店当り年間売上高は五所川原、弘前に次いで第3位の実績を上げている。これは、弘前、五所川原両市の中間に位置し、隣接する鶴田町、藤崎町が板柳に比べ商業規模が小さく地元への侵透がないことや交通事情によるものと思われる。これらの点から板柳商圈は今後もさらに発展していくことが予想されるが、隣接地域の鶴田町は五所川原、藤崎町は弘前の両商圈の侵透が強いため地元以外のヒンターランドがなく、最終的には地元商圈の確立に止どまらざるを得ないだろうと思われる。

### (2) 三市を中心とした商圈規模の考察

三市のうち黒石商圈は、わずかに田舎館村を含むだけであり津軽平野においては弘前、五所川原両商圈によって二分されていると言える。弘前と五所川原を比較した場合、弘前は圧倒的に斜陽の色が濃いと言われている。古くから商業都市として発展してきた弘前は年間約400億円にのぼる小売販売額は確かに伝統の強みを感じさせるが、1店当り売上高は1,192万円で、五所川原の1,784万円さらには青森の1,349万円に対して大きな差となって表われている。それに主要購買客が津軽農民であるため米とりんごのみに頼っている津軽地方の農民の購買力には明らかに限界がある。このような観点から考察した場合、弘前の商業発展を図る途としては津軽平野一帯をヒンターランドとしてきた今までの商業形態から一歩飛躍して、かつての城下町としての色彩を生かした観光産業による新しい開発が商業都市として再び発展性をおびてくると思われる。一方、五所川原市は昭和29年に市制を施行したいわゆる新興都市であるが、商業の発展はめざましく昭和39年から45年にかけて商店数は約1.5倍、年間販売額は約4.4倍の伸びを示しており商店1店当り売上高も43年からは弘前を上回るに至った。また、現在着工中の青函トンネルなどの交通革命によって津軽半島の商圈を青森市とともに握っている五所川原市の地位も、以前に比べてクローズアップされてくると思われ今後の一層の発展が期待される。

## Ⅵ ま と め

最後に、津軽平野における各地域の総合依存度を算出することによって津軽地域の商圏のまとめとした。総合依存度は、商品購入面から最寄品、最寄的耐久消費財、買回品、専門品とサービス機能面から病院、映画の依存度を総合した。依存度の算出法は、依存率の1～100%までも10%ごとに十段階に区分し、1～10点の点数によって算出した。つまり、調査項目が6項目あるため最高が60点となる。そもそも段階によって点数をつけるという方法には問題があるが、本調査の場合、全体のまとめとして各地域の商圏の概要を知るという意味でここに上げたものである「第5表」。そこで、この表から三市を中心とした各商圏分野を考察して

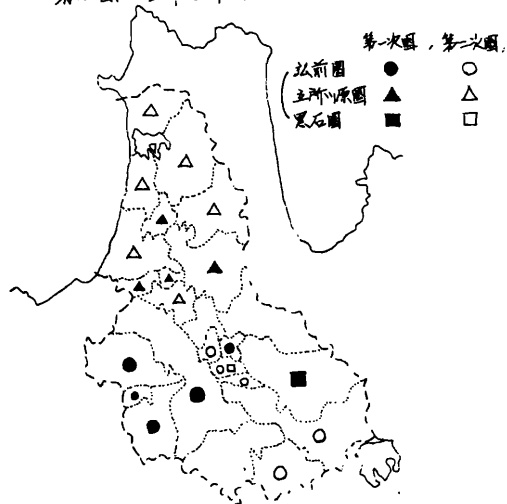
第5表 総合依存度

<最高60点>

調査 番号	弘 前 市	五所川原市	黒 石 市	地元市町村	そ の 他
1				49	板柳町 6
2	3			54	
3	7			51	
4	2	30		26	
5	34			23	
6	12		5	32	青森市 9
7	18	4		38	青森市 3
8	24			30	
9	6	27		21	板柳町 4
10		27		32	
11		26		18	金木町 15
12	53			6	
13	39	1	1	15	板柳町 5
14	37		11	8	
15	30		25	3	
16		25		20	金木町 8
17	1	45		5	金木町 9
18	41		4	9	浪岡町 8
19	2	41		7	木造町 3
20	37			14	大鰐町 5
21	5	27		16	金木町 3
22	4	43			木造町 11
23	49			5	



第2図. 三市を中心とした商圏規模



みた。まず完全な依存の場合，総合依存度が60となるため第一次圏を40以上とした。次に第二次圏は25以上とした。以上の点から三市を中心とした商圏規模を第2図に示した。

#### 参 考 文 献

- (1) 青森県企画部統計課 (1964~70) 商業統計調査結果書
- (2) 仙台市 (1962) 仙台市生活圏調査報告書
- (3) 佐野 富士弥 (1965) 会津盆地における商圏の研究 東北地理 Vol.17 No. 2
- (4) 木地 節郎 (1958) 市界を接する地方二都市間の商圏競合 地理評 Vol. 31 No. 5
- (5) 幸田 清喜編 (1967) 経済地理学Ⅱ 朝倉書店